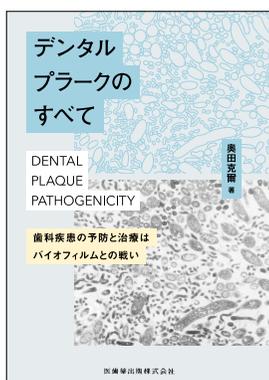


デンタルプラークと戦う すべての歯科医療従事者に



デンタルプラークのすべて

歯科疾患の予防と治療はバイオフィームとの戦い
奥田克爾 著

A4判/188頁
定価 8,470円 (本体 7,700円 + 税 10%)
医歯薬出版 (2020年8月)

藤橋歯科医院 (栃木県宇都宮市)
評・安生朝子 (歯科衛生士)



執筆者の奥田克爾先生は、ミュータンス菌や歯周病キーストン細菌である *Porphyromonas gingivalis* などの口腔細菌学の第一人者です。長年、基礎研究だけでなく臨床研究も続けながら、多くの大学院生や歯科衛生士の研究指導に携わられてきました。

皆さんもご存じのとおり、デンタルプラークは、複数細菌種から構成されるバイオフィームです。本書では、歯科医療はデンタルプラーク細菌集団との戦いであることを長年提唱してこられた奥田先生が約50年かけて研究してきた成果に、世界中の最新医学知識を加えた数々の情報がわかりやすく解説されています。

私たちの身体は約37兆個の細胞から作られています。腸管内などに住み着く細菌は数百兆個に達するともいわれます。そのなかにある

善玉菌は、免疫系、神経系、ホルモン系の細胞と連携しながらソーシャルネットワークを築いて私たちの健康に大きく貢献していることが明らかにされてきました。一方、デンタルプラークなど口腔に100億から1兆ほど存在するといわれる細菌は、大腸菌やピロリ菌などが口腔内に定着しないよう働きますが、皆さんもよくご存じのように齲蝕や歯周病の原因となる細菌集団です。

デンタルプラーク内の細菌の影響は口腔内に留まらず、唾液にまぎれて下気道に流れ込んで誤嚥性肺炎を起こします。また、歯周ポケットから血流に入り込んで心疾患、脳疾患、関節リウマチ、妊娠トラブル、糖尿病など全身疾患の引き金になり、それらを増悪させてしまう可能性があるともいわれます。

書籍を開くと、はじめにデンタルプラーク基礎知識として欠かせない、歯面への付着、形成の機序が図でわかりやすく説明されています。ついで、なぜ齲蝕と歯周病がデンタルプラークによる感染症であるといえるのか、その理由が明快に解説されています。

ページを進めていくと、抗菌性洗口液を組み込んだプラークコントロールの利点など、歯科衛生士が知っておきたい実践的な情報が多く盛り込まれています。

最後の章では、新型コロナウイルスによるパンデミックが起きているいまこそ、感染や重篤化の予防にオーラルヘルスが重要だということが根拠とともに書かれています。

“ウエルネス”は、肉体面の健康だけを論じるのではなく、積極的・創造的な生活を実現し、心身の良好な状態の維持・推進を目的とした新しい健康観です。奥田先生を本書の執筆に駆り立てたものは、歯科医療やオーラルヘルスこそ、ウエルネスを実現させる鍵であるという信念なのかもしれません。